2040年代の将来都市像の実現に向けて
（大田区都市計画マスタープランの進行管理）

1 大田区都市計画マスタープランの役割・体系

都市計画マスタープランとは、都市計画法第18条の2で定める区の都市計画に関する基本的な方針であり、大田区基本構想に即して、中長期的な視点で将来都市像の実現に向けた道筋を示す都市づくり分野のガイドラインです。

目標年次は2040年代としています。

2 将来都市像と都市づくりのテーマ

都市計画マスタープランでは、**「暮らす・働く・訪れる」大田区らしい多彩な景色が人々を惹きつける**という将来都市像を設定しています。この将来都市像の実現には、生活の中の人々の活動（ソフト施策）とそれを支える都市基盤整備などの都市計画と深く関わる取組（ハード施策）が一体となった展開が必要です。

そこでソフト施策とハード施策を織りまぜた４つのテーマを設定しています。各テーマには都市づくりの課題を解決するための重点項目として10の視点を整理しております。

〈都市づくりのテーマと視点〉

テーマA　にぎわいと交流を生む国際都市の発展

視点
1. 持続的成長を支える魅力ある拠点
2. 都市の発展を牽引する産業環境
3. 来街者も円滑に移動できる交通環境

テーマB　地域力を育む暮らしやすい場の提供

視点
4. 多様なライフスタイルに対応できる良好な住環境
5. 様々な移動手段を選択できる地域交通

テーマC　安全・安心な生活の実現

視点
6. 強靭で回復しやすい減災都市
7. 様々な活動に支えられた安全・安心な都市
8. オープンスペースを活かした防災都市

テーマD　地球にやさしい環境の創出

視点
9. 水と緑のネットワークによる安らぎのある都市
10. 持続可能な社会の基盤となる脱炭素化が進む都市

3 進行管理の考え方

進行管理にあたっては、「都市づくりのテーマ」で掲げる1～10の視点ごとに、都市づくりの進捗状況を見える化する“進行管理指標”を設定します。

進行管理指標は、統計データや区民アンケート、関連計画の指標などを活用し、適宜目標値等の更新を図ることで、マスタープランの実現に努めます。

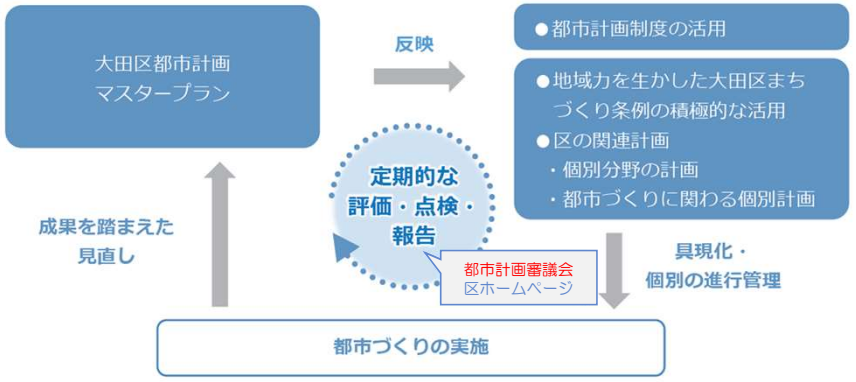
進行管理指標は、政策指標　事業実績　の２点で整理を行います。

また、同時に「都市づくりのテーマ」の満足度評価も行っていきます。

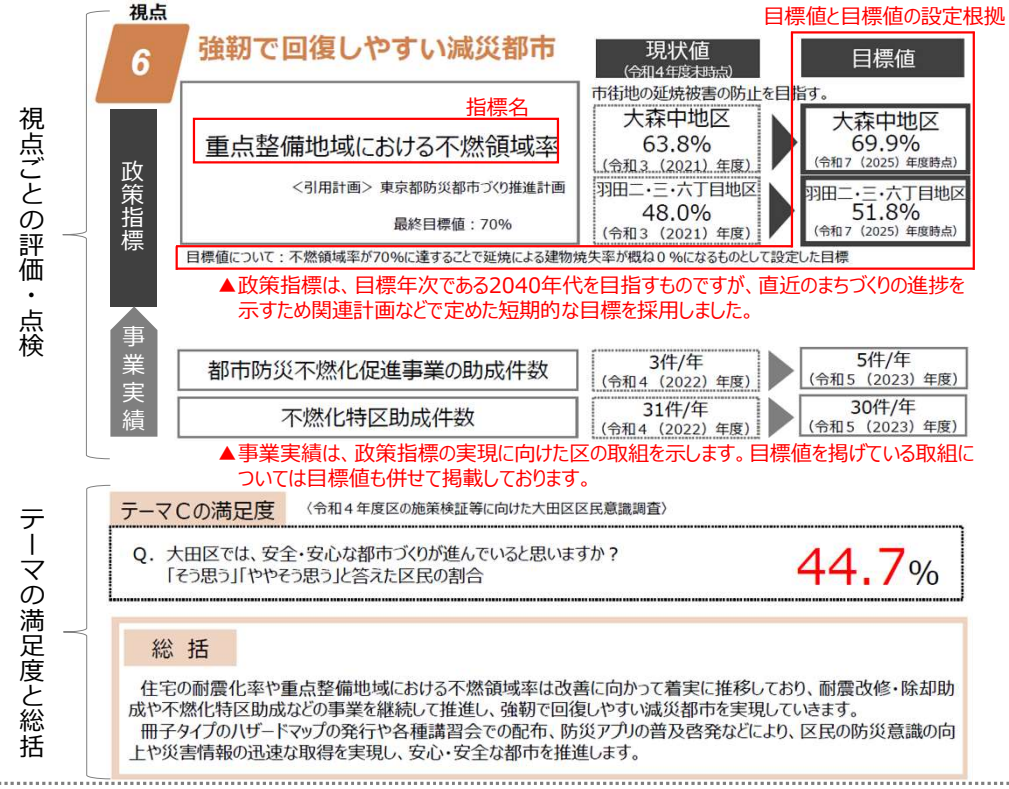
政策指標	＝都市づくりの進捗状況を見える化する指標
事業実績	＝政策指標の向上に資する代表的な取組

4 計画の進行管理・見直し

都市計画マスタープランの目標年次は概ね20年後と長期に渡ることから、将来都市像の実現に向け適切な進行管理を行うとともに、基本計画などの策定・改定の機会や進行管理と連動し、必要に応じて柔軟に見直しを行います。



進行管理指標の見かた



都市づくりのテーマ

A にぎわいと交流を生む国際都市の発展

めざす姿

大田区らしい「暮らす、働く、訪れる」などさまざまな活動が展開され、人々の自由自在な移動と交流が確保されるなど、国際都市としてふさわしいにぎわいや機能を備えた拠点づくり、大田区の産業を世界に発信する拠点づくりが進んでいます。

視点1 持続的成長を支える魅力ある拠点

政策指標

	現状値（令和7年度末時点）	目標値
区内宿泊施設の宿泊者数 周辺飲食店などに広く経済効果の波及を目指す。	201万人/年 （令和７年度） 205万人(令和６年度)	175万人/年 （令和８年度）
国際交流・多文化共生が進んだまちだと感じている区民の割合 <引用計画>「国際都市おおた」多文化共生推進プラン 日本人、外国人を意識せず、地域の中で安心かつ快適に暮らせるまちの進展を目指す。	33.8% （令和７年度） 24.7%(令和５年度)	30% （令和10年度）

目標値について：新型コロナウイルス感染症の拡大前である令和元（2019）年度宿泊数約171万人と同水準の利用者数を見込んだ目標

目標値について：平成30（2018）年度と令和３（2021）年度の世論調査から、３年間で約４％減少している状況の回復に向け、１年で１％増を目指して設定した目標

事業実績

大田区観光情報センター利用者数	38,829人/年 （令和７年度） 39,916人(令和６年度)	70,000人/年 （令和８年度）
ウェルカムスポット登録件数	526件 （令和７年度） 509件(令和６年度)	10件増/年

ウェルカムスポット：国内外からの来訪者を積極的に受け入れる店舗・施設を「大田区ウェルカムショップ」、観光マップやパンフレットの配布等にご協力いただける店舗・施設を「大田区まちかど観光案内所」として登録している

視点2 都市の発展を牽引する産業環境

政策指標

	現状値（令和7年度末時点）	目標値
製造品出荷額 「工業」「商業」をはじめとする多様な区内産業の持続的発展を目指す。	— (—) 4,345億円(令和３年度)	5,000億円以上/年 （令和８年度）
大田区内従業者数	— (—) 355,138人(令和３年度)	360,000人 （令和８年度）

目標値について：製造品出荷額　過去の推移及び区の取組に伴い見込む成果を踏まえて設定した目標

大田区内従業者数　産業集積の持続的な維持・発展を念頭に、平成26年の値（359,410人）を目指して設定した目標

事業実績

過去20年間で大田区工場アパート立地助成事業を活用し整備した工場アパートのユニット数	71件 （令和７年度） 71件(令和６年度)	200件 （令和24年度時点）
立地助成事業の認定件数 （企業立地・SDGs促進助成、工場アパート立地助成、ものづくり企業立地継続補助金）	50件/年 （令和７年度） 52件(令和６年度)	40件/年

視点3 来街者も円滑に移動できる交通環境

政策指標

	現状値（令和7年度末時点）	目標値
主要駅における年間乗車数 （大森駅、JR蒲田駅、東急蒲田駅、京急蒲田駅） 「暮らす、働く、訪れる」といった様々な活動によるにぎわいと交流ある都市環境の実現を目指す。	— (—) 113,881千人/年 （令和６年度）	108,294千人/年 （令和８年度）
【参考指標】 生活環境の満足度「交通の便」 円滑に移動できる交通環境の進展により、様々な人々の交流を促進する。	79.2% （令和７年度） 78.6%(令和５年度)	80.0%

目標値について：新型コロナウイルス感染症の拡大により減った乗車数は、テレワーク等の普及により従前までは戻らないと仮定して設定した令和８（2026）年度の見込乗車数に対して、区の取組成果として４駅合計で5,500人／日×365日の増となることを目指して設定した目標

目標値について：過去の実績でも常に70%以上であり高い数値となっているが、さらに交通の便に満足する区民の割合を増やすことを目指して設定した目標設定

事業実績

新空港線の整備（第一期整備）	新空港線の事業化 （令和７年度） 関係者協議・調整 （令和６年度）	整備完了 （令和20年代前半）
都市計画道路の整備延長 用地取得累計件数	53.73km/96.2% 73件（令和７年度） 53.73km/96.2% 72件（令和６年度）	55.86km/100% （令和９年４月）
中心拠点における交通結節機能の強化	大森 （補助28号線（池上通り）・大森駅西口広場の整備） 電線共同溝予備修正設計の実施、交通戦略及び大森駅西口広場空間デザイン方針の検討 （令和７年度） 事業概要及び用地補償説明会 （令和６年度）	整備完了 （令和14年度）
	蒲田 （蒲田駅東口・西口中長期整備） 検討 （令和７年度） 検討(令和６年度)	基盤施設整備完了 （令和20～30年代）

テーマAの満足度

（令和７年度区の施策検証等に向けた大田区区民意識調査）

Q．大田区では、活力、国際性ある都市づくりが進んでいると思いますか？
「そう思う」「ややそう思う」と答えた区民の割合

41.9%
45.8%（令和６年度）

総　括

ウェルカムスポット登録件数は前年と比べて増加しました。区内宿泊施設の宿泊者数は目標値を上回りながらも減少しています。引き続き、国際都市としてふさわしいにぎわいや機能を備えた拠点の形成を進めるとともに、魅力ある観光資源の発掘・紹介・整備を通じて、繰り返し訪れたくなる都市づくりを推進していきます。

また、生活環境の満足度「交通の便」については、増加傾向にあるものの、目標値には及ばない数値となっています。今後も広域的な交通の利便性向上や地域における移動の円滑化等を図っていきます。

都市づくりのテーマ

B 地域力を育む暮らしやすい場の提供

めざす姿

暮らしに必要な様々な機能を備え、職住が近接した、ウォーカブルな地域づくりが進んでいます。暮らしやすさや都市の景観をさらに磨き上げることにより、高齢者や子ども、障がい者、外国人など、すべての人々がライフスタイルや価値観の多様化に応じて、住み、働き、憩う場を選択できる都市となっています。

視点4 多様なライフスタイルに対応できる良好な住環境

政策指標

	現状値（令和7年度末時点）	目標値
「ユニバーサルデザイン」の定義を理解している人の割合 <引用計画> 大田区ユニバーサルデザインのまちづくり基本方針 アクションプランVer. 3	58.1%（令和７年度） 67.6%(令和６年度)	70%（令和10年度）

ＵＤの考え方の浸透と誰もが安心して快適にすごせるまちの実現を目指す。

目標値について：現状値を踏まえ、令和５（2023）年度までに達成を目指して設定した目標

成人の週１回以上のスポーツ実施率 <引用計画> 大田区スポーツ推進計画（令和７～令和11年度版）	42.7%（令和７年度） 66.5%(令和６年度)	70%（令和11年度）

区民の健康の維持増進を目指す。

目標値について：国の目標値（第３期スポーツ基本計画）と同じ水準を目指して設定した目標
（実績値を踏まえ、次期計画改定の際に見直し予定です。）

【参考指標】 若い世代における定住意向 （10・20～30代）	78.2%（令和７年度） 75.6%(令和５年度)	80.9%（令和８年度）

子育て世帯に選ばれるまちの実現とまちの活性化や活力ある地域の維持

目標値について：平成26（2014）～令和３（2021）年度までの間の最大値である平成27（2015）年度の78.6%を達成したうえで、過去の推移と区の取組成果による数値の上昇を見込んで設定した目標

事業実績

知ることからはじまるユニバーサルデザインのまちづくり「心のバリアフリーハンドブック」の配布実績	8,800部程度（令和７年度） 9,000部程度(令和６年度)	継続的に実施
バリアフリー特定事業の進捗率 <引用計画> 大田区バリアフリー基本構想おおた街なか“すいすい”プラン	蒲田駅周辺地区81.0%（令和７年度まで） 77.0%(令和６年度まで)	
	大森駅周辺地区80.0%（令和７年度まで） 82.0%(令和６年度まで)	
	さぼーとぴあ周辺地区69.0%（令和７年度まで） 68.0%(令和６年度まで)	
区民スポーツまつりの参加者数	12,181人（令和７年度） 14,031人(令和６年度)	16,000人（令和11年度）
公園の運動施設の稼働率	51.4%（令和７年度） 54.5%(令和６年度)	
防災塾の開講	6地区/年(令和７年度) 2地区/年(令和６年度)	２地区/年

視点5 様々な移動手段を選択できる地域交通

政策指標

	現状値（令和7年度末時点）	目標値
交通事故発生件数 <引用計画> 第11次大田区交通安全計画	1,613件（令和７年度） 1,506件(令和６年度)	1,100件以下（令和７年度）

より安全で快適な社会の実現を目指す。

目標値について：第10次交通安全計画期間の交通事故減少率を維持して算出した目標

【参考指標】【再掲】 生活環境の満足度「交通の便」	79.2%（令和７年度） 78.6%(令和５年度)	80.0%

円滑に移動できる交通環境の進展により、様々な人々の交流を促進する。

目標値について：過去の実績でも常に70%以上であり高い数値となっているが、さらに交通の便に満足する区民の割合を増やすことを目指して設定した目標

事業実績

【再掲】 都市計画道路の整備延長 用地取得累計件数	53.73km/96.2% 73件（令和７年度） 53.73km/96.2% 72件（令和６年度）	55.86km/100%（令和９年４月）
ホームドア・ホーム柵の設置駅 （一部設置含む）	39駅/43駅（令和７年度） 37駅(令和６年度)	43駅/43駅

テーマＢの満足度

〈令和７年度区の施策検証等に向けた大田区区民意識調査〉

Q．大田区では、暮らしやすい都市づくりが進んでいると思いますか？
「そう思う」「ややそう思う」と答えた区民の割合

56.4%
65.2%（令和６年度）

総　括

若い世代における定住意向は増加傾向にあります。今後も交通利便性や子育て支援等の定住意向に関連する要因について分析を行い、地域特性に対応した良好な住環境の形成を推進していきます。

また、交通事故発生件数については、前年と比べて増加しています。引き続き、交通事故の抑制に向けた自転車安全教育等の安全対策を進めるとともに、ホームドアやホーム柵の設置等の取組も継続して行っていくことで、安全・安心に暮らせる生活環境の確保を図ります。

都市づくりのテーマ

C
安全・安心な生活の実現

めざす姿

首都直下地震や気候変動の影響により激甚化する風水害に加え、感染症等の新たなリスクへの対応や、快適で安心な日常生活を送ることができる都市環境整備により、安全・安心な都市として多くの人を惹きつけています。

視点 6

強靭で回復しやすい減災都市

政策指標

	現状値（令和7年度末時点）	目標値
住宅の耐震化率 <引用計画> 大田区耐震改修促進計画	93.7%（令和７年度） 93.1%(令和６年度)	概ね解消（令和８年度）

地震による建物倒壊の防止を目指す。

目標値について：耐震性が不十分な住宅を概ね解消することで地震被害を大幅に減ずるとして設定した目標

	現状値（令和7年度末時点）	目標値
重点整備地域における不燃領域率 <引用計画> 東京都防災都市づくり推進計画 最終目標値：70%	大森中地区 65.6%(令和６年度) 65.3%(令和５年度)	大森中地区 70%超（令和12年度）
	羽田二・三・六丁目地区 50.7%(令和６年度) 50.2%(令和５年度)	羽田二・三・六丁目地区 58%（令和12年度）

市街地の延焼被害の防止を目指す。

目標値について：不燃領域率が70%に達することで延焼による建物焼失率が概ね０%になるものとして設定した目標

	現状値（令和7年度末時点）	目標値
整備地域における延焼遮断帯の形成率 （都市計画道路の整備に関する事項は除く） <引用計画> 東京都防災都市づくり推進計画	大森中地域 74.0%(令和６年度) 73.7%(令和５年度)	75% （令和12年度）
	西蒲田地域 42.5%（令和６年度） 37.7%(令和５年度)	

延焼遮断、輸送ネットワークの確保を目指す。

目標値について：都市計画道路の整備と沿道の不燃化・耐震化が進み延焼遮断帯が形成されることで、震災時の延焼遮断機能に加え、避難経路、輸送ネットワークなどが確保された安全なまちが形成されるとして設定した目標

事業実績

	現状値（令和7年度末時点）	目標値
耐震改修・除却助成件数	172件/年(令和７年度) 206件/年(令和６年度)	273件/年（令和７年度）
都市防災不燃化促進事業の助成件数	2件/年（令和７年度） 1件(令和６年度)	5件/年（令和11年度）
不燃化特区助成件数	26件/年(令和７年度) 35件(令和６年度)	25件/年（令和12年度）
【再掲】 都市計画道路の整備延長 用地取得累計件数	53.73km/96.2% 73件（令和７年度） 53.73km/96.2% 72件（令和６年度）	55.86km/100% （令和９年４月）

目標値について：新おおた重点プログラムの年度別計画から引用・算出した目標値

テーマCの満足度

〈令和７年度区の施策検証等に向けた大田区区民意識調査〉

Q．大田区では、安全・安心な都市づくりが進んでいると思いますか？
「そう思う」「ややそう思う」と答えた区民の割合

43.4%
50.4%（令和６年度）

総括

住宅の耐震化率や重点整備地域における不燃領域率は改善に向かって着実に推移していることから、耐震改修・除却助成や不燃化特区助成などの事業を継続して推進していきます。

防災アプリの登録者数は増加傾向にある一方で、ハザードマップを確認した区民の割合は令和３年度から減少しています。特に若年層におけるハザードマップの確認割合が低いことを踏まえ、今後は更に子どもや子育て世代が参加するイベントや各種講習会等を実施し、区民一人ひとりの防災力を高めていきます。

視点 7

様々な活動に支えられた安全・安心な都市

政策指標

	現状値（令和7年度末時点）	目標値
ハザードマップを確認した区民の割合 <引用計画> 大田区国土強靭化地域計画	43.2% （令和７年度） 43.5% （令和６年度）	70.0% （令和８年度）

地域の災害リスクについての理解の深度化、家庭や地域内の防災意識の向上を目指す。

目標値について：マイ・タイムライン講習会等の普及啓発活動による増加を見込んで設定した目標

	現状値（令和7年度末時点）	目標値
防災アプリの登録者数 <引用計画> 大田区国土強靭化地域計画	80,025人 （令和７年度） 61,600人 （令和６年度）	115,000人 （令和10年度）

震災、風水害、土砂災害等に関する災害情報の迅速な取得を目指す。

目標値について：「東京都防災アプリ」の年間ダウンロード数増加率を参考として設定した目標

	現状値（令和7年度末時点）	目標値
中小企業におけるBCP策定率	— （—） 19.7%(令和５年度)	30.0% （令和８年度）

災害の発生など、非常事態が発生した際の区内企業の迅速な復旧を目指す。

目標値について：令和12（2030）年度までに40%の策定率を目指すにあたり、過去２回の「中小企業の景況」特別調査における調査結果（策定率）を基に設定した目標

事業実績

	現状値（令和7年度末時点）	目標値
【再掲】 防災塾の開講	6地区/年(令和７年度) 2地区/年(令和６年度)	2地区/年
防犯灯（私道）のLED設置(基)数/整備率	5,769基/76.4% （令和７年度） 5,342基（令和６年度）	7,544基/100% （令和７年度）
区HP「大田区簡易版BCPシート」における各シート等のダウンロード件数	3,019件/年 （令和７年度） 2,650件/年(令和６年度)	5,330件/年 （令和８年度）

視点 8

オープンスペースを活かした防災都市

政策指標

	現状値（令和7年度末時点）	目標値
暮らしを支える身近な公園の充足度 <引用計画> 大田区緑の基本計画グリーンプランおおた	97% （令和７年度） 97%(令和６年度)	100% （令和12年度）

雨水浸透機能の拡充による水害発生リスクの低減や、延焼防止空間の確保による災害に強いまちの形成、安全な一時避難場所や避難路の確保を目指す。

目標値について：区内全域において、自宅から250m以内に１か所以上の公園が確保されることを目指して設定した目標

事業実績

	現状値（令和7年度末時点）	目標値
区立公園の面積/区立公園の数	2,160,683.71㎡(令和７年度) /544件(令和７年度) 2,153,259.48㎡(令和６年度)/545件(令和６年度)	
民間誘導による公園・広場の整備件数	2件/年(令和７年度) 1件/年(令和６年度)	

都市づくりのテーマ

D 地球に優しい環境の創出

めざす姿

豊かな水と緑などさまざまな表情を見せる大田区らしい景色が持続可能となるよう、環境に配慮した都市づくりが進んでいます。

視点 9

水と緑のネットワークによる安らぎのある都市

政策指標	現状値（令和7年度末時点）	目標値
緑被率 <引用計画> 大田区緑の基本計画グリーンプランおおた	— (—) 18.32% (平成30年度)	21.5% (令和12年度時点)

緑あふれる憩いの場所の創出、こころ豊かに住み続けられるまちの実現を目指す。

目標値について：大田区緑の基本計画グリーンプランおおた（平成23（2011年））の目標年次である20年後の公園緑地の整備量及び開発指導の緑化実績を見据えて設定した目標

政策指標	現状値（令和7年度末時点）	目標値
【参考指標】「緑の多さに満足している」と答えた区民の割合 <引用計画> 大田区緑の基本計画グリーンプランおおた	67.1% (令和７年度) 62.8% (令和６年度)	70% (令和12年度)

みどりのまちづくりの進展を目指す。

目標値について：平成20（2008）年度から令和３（2021）年度は7.7%上昇しており、令和12（2030）年度に向けた継続的な上昇を踏まえて設定した目標

事業実績		
保護樹木・保護緑地の指定状況	1,122件(令和７年度) 1,153件(令和６年度)	1,200件 (令和８年度)
散策路の整備延長	24,165m(令和７年度) 23,165m(令和６年度)	

視点 10

持続可能な社会の基盤となる脱炭素化が進む都市

政策指標	現状値（令和7年度末時点）	目標値
大田区の温室効果ガス排出量 <引用計画> 第2次大田区環境基本計画 基準値：3,455千t-CO2（平成25（2013）年度） 最終目標値：実質ゼロ達成（2050年度）	2,680千t-CO2 (令和５年度) 2,891千t-CO2 (令和４年度)	1,727千t-CO2以下 (令和12年度)

地球温暖化のスピードの抑制や気候変動の影響による自然災害や健康被害、生態系破壊等の防止を目指す。

目標値について：大田区脱炭素戦略（令和５年（2023））による試算値（将来推計と国の計画を踏まえた対策等による削減見込量を積算したもの）を設定した目標
（2030年度の目標達成に向けては、既存事業のほか、今後脱炭素戦略等に基づく多様な取組を進めていきます。事業については状況等に応じて見直しを行います。）

事業実績		
公共施設における太陽光発電設備の導入数/導入率	33件/5.5%(令和７年度) 28件/4.7%(令和６年度)	40件 (令和14年度時点)
低炭素建築物の認定件数/認定率	92件/4.3%(令和７年度) 67件/2.9%(令和６年度)	
庁有車（乗用車）の電動車率	72.9%(令和７年度) 52.1%(令和６年度)	100% (令和12年度)

テーマDの満足度

〈令和７年度区の施策検証等に向けた大田区区民意識調査〉

Q．大田区では、環境に配慮した都市づくりが進んでいると思いますか？
「そう思う」「ややそう思う」と答えた区民の割合

44.9%
52.1%（令和６年度）

総括

「緑の多さに満足している」と答えた区民の割合は、増減を繰り返しつつも、目標値に満たない数値となっています。今後も、令和12年の目標値70%達成を目指し、大田区緑の基本計画グリーンプランおおたで示す取組の進捗管理を行い、各取組の推進を図っていきます。

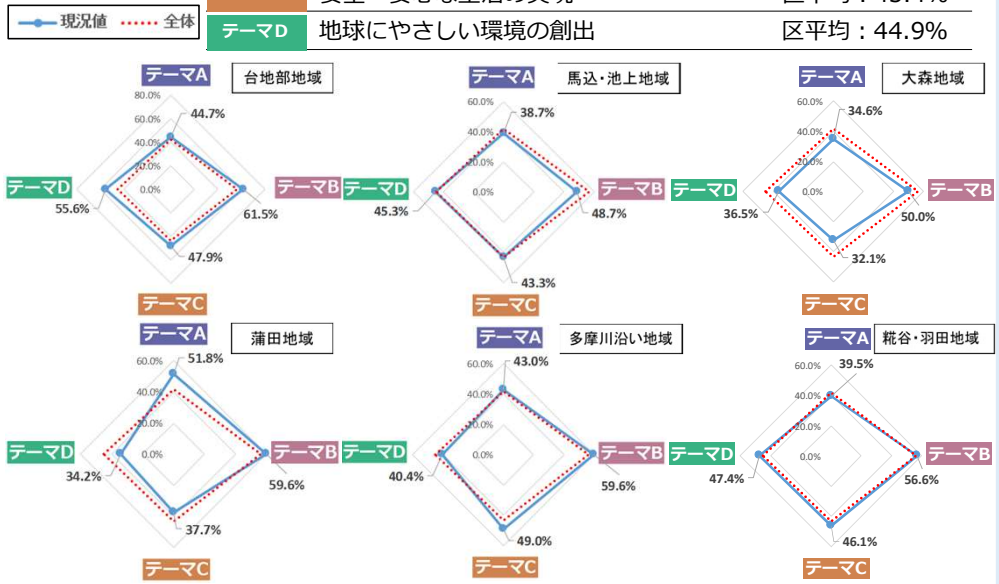
温室効果ガス排出量については減少傾向にありますが、2050年の脱炭素社会の実現に向け、取組みをより一層強化するため、区民・事業者・区が一体となって省エネ対策を推進し、環境に配慮した持続可能な都市づくりを目指します。

各地域の満足度評価

〈令和７年度区の施策検証等に向けた大田区区民意識調査〉

前年度と同様に、全体的にテーマBの満足度が高くなっており、自分の住む地域が暮らしやすいと感じる区民が増えていることが分かる。また、羽田空港に近接している蒲田地域ではテーマAの満足度が高い結果となった。その一方で、テーマCの満足度はすべての地域で半数を下回っており、安心かつ快適な生活の実現に向けた更なる都市環境整備の推進が求められていることが読み取れる。

テーマA	にぎわいと交流を生む国際都市の発展	区平均：41.9%
テーマB	地域力を育む暮らしやすい場の提供	区平均：56.4%
テーマC	安全・安心な生活の実現	区平均：43.4%
テーマD	地球にやさしい環境の創出	区平均：44.9%



※空港臨海部地域は、区民意識調査に基づく満足度のデータはありません。